

広島県医師会 会長就任挨拶 ～オール広島の県医師会～



広島県医師会 会長 松 村 誠

この度、6月14日に行われた広島県医師会第128回定時代議員会において、伝統と歴史ある広島県医師会の第15代の会長に選任いただき就任致しました。心より感謝申し上げますと共に、与えられた職責の重さに改めて身の引き締まる思いです。

6月25日まで広島市医師会会長を7年間務め、多くの皆さまに助けられながら、多くのことを学ぶことができました。これまでの貴重な経験を生かし、県下全ての市区郡地区医師会の参画による実行力ある「オール広島の県医師会」を創り上げる決意です。

さて、都市部では新型コロナウイルス感染の第二波の様相を呈し始めています。広島市におきましても徐々に感染者が増加してまいりました。第二波から県民のいのちと健康と生活を守るため、そして会員と医療機関、ひいては地域医療を守るため、県行政・広島大学・県医師会、まさに官・学・民の協力体制の下、迅速かつ的確な対応をする所存です。感染者を受け入れた医療機関においては、院内感染や人的・物的不足による医療崩壊の危機に直面されたことと存じます。受け入れ医療機関に対するさらなる人的・物的支援により人材・病床を確保致します。

一方、多くの一般医療機関においては、外出自粛に伴う患者数の激減により、経営危機が深刻化することが懸念されており、地域医療を守るため、今こそ早急な財政支援が必要です。行政と共に感染症対策に取り組んでい

く中で、医療機関への財政支援につきましても、強く要望してまいります。これら医療機関が直面する問題解決のため、長年の医師会活動を通し広島の地域医療を支えてきた貴重な経験と、会員支援理念や行政と広島大学との密接な連携を生かし、日本医師会や国と連携協力し、地域医療を守ります。

そのために、広島県医師会と市区郡地区医師会が一体となり実行力ある「オール広島の県医師会」を創り上げ、さらに行政・大学・県医師会(官学民)の協力により、なお一層の医療機関の連携と役割分担を図るとともに、医療機関の経営支援を行い、地域医療を守ります。

そして、人口減・少子超高齢社会と向き合い、県内を網羅するネットワークを構築して市区郡地区医師会と会員を支援し、地域の特性と実情に応じた医療介護供給体制、地域医療構想、および災害や新興感染症等の非常事態に対する危機管理体制を確立し、地域包括ケアシステムの深化を図ります。

また、HMネットの改革と拡充により、パソコンがあれば誰でも使え、オンライン診療もできる、実効性のある医療福祉情報共有システムの基盤を作ります。

以上、これからも真摯な対話により信頼関係を築き、役職員一丸となって積極的に広島県民のいのちと健康と生活を守り、会員のため、そして市区郡地区医師会のための医師会創りを行ってまいります。どうぞ引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。